

令和6年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和6年10月11日（金）

地 区 勇払地区

会 場 勇払総合福祉会館

<意見交換>

◆市民・・・と申します。勇払のマリーナから出光のほうに一本道路、メイン道路なんですけれども、北のほうの歩道はきれいになっているんですけれども、そうでない海側の歩道がもう草がぼうぼうで、数年前は年に何回か刈っていたんですけれども、今年は何か一度も刈ってがなく、そちらのほうから学校に行く通学路にもなっていて、結局その道路は草がぼうぼうで通れなくて、危なく、横断歩道もないところを通学していると。そのことで。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、勇払マリーナから出光へ向かう道路のところで草がぼうぼうでちょっと歩くのが大変だということだったんですが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎道路管理主幹 私、市道の維持管理を行っている菅野といいます。今おっしゃられた場所というのは、北海道の道道なものですから、北海道のほうに私どもからその旨をお伝えしますので、ちょっと市のほうで草が伸びているから勝手に切るというわけにいかないものですから、そういう現状です。

週明けになるんですけれども、お伝えしますので、その後、どうなったかというのは、また再度、どういう対応をするかということを、回答をいただいて、お伝えするようにしたいと思いますので、よろしいでしょうか。

○司会 それでは、ほかにいらっしゃいませんか。

◆市民・・・と申します。民生委員、4期目です。民生委員の成り手不足についてお伺いしたいと思います。

来年の12月には一斉改選することで、また民生委員の成り手不足という心配があります。多分前回の改選のときも、総合福祉課さんがとても苦勞なさったと思うんですけれども、厚労省では、よその土地からここに働きに来ている方もオーケー、あるいは隣のまちに引っ越してきた方も民生委員はオーケーという施策で、どうにか民生委員を増やそうとしているんですが、これが有効に対策としてなるかどうかちょっと不安なところなんですけれども、こういった話で、民生委員不足してしまうんですけれども、苫小牧市独自で何か対策を考えているか、お聞かせください。

○司会 ありがとうございます。ただいま、民生委員の成り手不足の対策についてということでしたが、回答のほうをお願いいたします。

◎福祉部長 運営委員の事務局を担当している福祉部の白川といいます。いつもお世話になっております。今お話があったとおり、全国的にもそうですが、苫小牧市も民生委員さんの成り手不足が本当に課題となっておりまして、一斉改選の令和4年の12月のときには、全部で基本4名欠員があ

ったんですが、その後もどんどんお辞めになったり、代わりの方が見つからないという、そういうような状況になっております。

それで、今お話があったとおり、地域にお住まいの方に限定せず、例えばそこにお勤めになっている方とか、通っていらっしゃる、地域をよく分かっている方も一部そういった町内会も求めているところもございまして。例えば、以前に住んでいて、ちょっと隣町に引っ越したんだけれども、以前の地域での民生委員さんを始めるとか、少しずつそういった取組に変えてきております。

この地域はなかなかお住まいの方から見つけるのが、私もいろいろなお話ししたところ、本当に難しいということを知っておりましたが、例えば地域のことをよく分かっている方とか、そういった方も要件として該当するようなことも、今考えていきたいと思っておりますし、あと成り手不足という意味では、今お仕事されている方が、やはり負担があつてなかなかできないということもありますので、そういったことも解決になるような、仕事をしながらでも、負担なくできるような方法というのも事務局として今いろいろ検討しているところでございますので、地域の皆さんでぜひ、この方、民生委員さんとしてとてもいいんだけど、お仕事をされていて忙しくてという話もあるかもしれません。ぜひご推薦いただいたりとか、地域で助け合いながら民生委員さんの成り手をぜひ見つけていただいて、地域の中でもそういう方がいたら教えていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 ・・といえます。一つお聞きしたいんですけれども、去年でしたか、苫小牧の駅前のエガオ、大東開発との裁判問題で、苫小牧市が敗訴となったということなんですけれども、この辺、裁判の費用だとか、エガオの建物の解体費用だとか、そういうものが当然かかるわけなんですけれども、もろもろのそういうお金のかかることなんですけれども、これは全面的に市が持つんですか。

また、土地の問題も駐車場と何か交換するとか、我々にはよく分からないことがあるんですけれども、一応そういう金銭的なことだとか、相当かかるということを新聞等で見たんですけれども、そういう内容が常々我々にはよく分からない。

そういうことで、この席で納得できるような返事をもらえと思っておりませんけれども、概要だけでもいいんですけれども、どれぐらいの費用がかかって、果たして今までやった経済効果を含めてどうなったのか、そういうことをお聞きしたいなと思います。

○司会 はい、ありがとうございます。

ただいま、駅前のエガオ、ビルについてのご質問でしたが、回答をお願いいたします。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の前田といいます。よろしくお願いいたします。

今のご質問いただきました、苫小牧駅前のエガオの跡地の関係だと思います。

今、現状としましては、10年ほど前、エガオビルが閉鎖になりまして、それ以降廃墟ビルになっていました。その直後から、一応市が無償譲渡、建物を頂きまして、その後、廃墟ビルの状態でありながら、市が持っている状態になっています。

ここ数年、二、三年の間に、市としてもこの停滞した状況を改善したいという考えで、市のほ

うで様々な計画を一応つくってきたというのは、これまでの二、三年の経過になります。

つい先日、新聞報道等もあったとおり、大東開発さんですとか、その他、土地を所有されている方々と、土地の交換ですとか、購入ですとか、そういうところの方向性を今協議している最中で、まだ確定している状態ではありません。ただ、そういう取組を含めながら、駅前、駅の南側の一定の範囲なんですけれども、市のほうが主体的に、民間事業者さんと一緒に、再開発の計画をつくっていききたいという考え方を出したというのが今の状況になっています。

当然これから進めていくに当たって、古い老朽化したその廃墟ビルの解体というところは、大きな負担になっていく部分ではあるので、今、現時点で、誰が費用負担をして、壊して、造っていくかというのはまだ確定はしていないんですけれども、一応当然最近の物価上昇ですとか、人手不足というところもあって、年々建設費は高騰しています。サンプラザビルも10億円以上のお金解体にかかるというのが今推計しているところです。

当然、壊した後何を作るかということも、これから検討していく予定になっているので、全体で考えると、もっと大きな金額がかかっていくだろうと。当然、全額市が負担して整備するということは考えてなくて、当然、収益を上げられるような新しい建物を造って、民間事業者さんが収益を上げる、そういうものも原資にして、再作業を面的にやりたいというのが、今市のほうで考えているところです。

ちょっとなかなか全体の金額というのはまだ見えていない状況なものですから、今お聞きになったところが明確なお答えになっていない部分もあるかと思うんですが、今まさに我々のほうで検討している最中ということで、もう少し時間をいただいて、改めてお示しできればとは思っています。

◎副市長 ちょっと補足させていただきますが、大東さんとの裁判の関係の話もございました。

それで、今話があったように、サンプラザの建物は市の所有では全くなかった建物です。サンプラザが倒産をして、破産管財人さんなりがあそこの整理をするときに、権利者がたくさんいて、なかなか集約がつかないと、何とか市に権利集約をして、市の建物として、その後の進め方を考えてくれということで、市では権利者の方に無償譲渡をいただいて、建物は、権利集約して市のものになりましたけれども、土地は大東さんが5筆持っておりました。大東さんからは、なかなか無償譲渡の理解が得られなかったということなんですけれども、ただ、大東さんが無償譲渡しなきゃいけないという義務もございませんので、そこは大東さんの考え方があったんだと思います。

それで裁判になったのは、大東さんの5筆の土地の上に、建物は市の建物になりましたから、市の建物が5筆の上に立っているんだから、その賃料を払えという訴えでありました。

よく考えると、ごくまともな言い分かなというふうには思っていますけれども、私たちはもともと市の建物であり、管財人から言われて、それを解決しようと思って、建物を権利集約して市のものにしたという、そういう経過も裁判所には分かっていたきたいということで、一審から二審まで争いました。ただ、やはり裁判所としては、そこまでの状況は加味されず、大東さんの土地の上に市の建物が建っているんだから、それは賃料を払えということで、敗訴して。敗訴し

たからには、これは、裁判費用は全て市で持たなきゃいけないということで、市のほうで裁判費用は全て予算を議会に上程して、認めてもらい、そこはお支払いしたという状況です。

それで、その後、これからどうするかというのは、今、課長のほうからも話がありましたけれども、まだまだ課題がありますし、決めていかなきゃいけない部分はたくさんあります。土地の交換だって、まだ正式にどうするということは決まったわけではありません。これから土地の所有者ともしっかり協議を重ねた上で、何とか駅前再整備、多分50年、100年に一度の整備となると思っておりますので、そこはいろいろと課題を見つけながら、協議をしながら、知恵を絞りながら、苫小牧の顔である駅前の再整備に向かっていきたいと思っておりますので、もう少し状況を見ていただければというふうに考えております。よろしくお願いします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 ・・と申します。医療機関のことでちょっと聞きたいんですが、こちらで出ている中では、いろいろバスの運行時刻やら、それから社会福祉協議会の移送サービスについてのそういうお話は書いているんですけども、実際、バスの便数もちろん減っているし、一番問題なのが、やはり勇払は高齢者が多い、苫小牧の中でも本当に断トツで多いのではないかというぐらいなので、まだバスやら、ぎりぎり自動車で病院とかに行けている人はいいいんですけども、それもちょっと厳しくなっている方たちのために、今の時代、パソコンやら何かで、要は、ちょっとそういう機関を勇払の中でつukれないものかと。何年か前から、ちょっとそういうお話もしていたような気はするんですが、今、診療所がなくなってからもう数年がたちますけど、やはり地域にないというのが一番のネックでありますので、そういう考え方というのができないものかとご相談したいなと思います。よろしくお願いします。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、地域のほうに医療機関がなくて何とかならないかというようなお話かと思いますが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎まちづくり推進課長 再びですけど、まちづくり推進課の前田です。よろしくお願いします。

今ご質問いただきました、遠隔診療みたいなジャンルのものかなと思っています。私もちょっと聞いているお話でしかないというところでご了解いただきたいんですけども、恐らく地域の方もご存じの方もいらっしゃるかもしれないですけど、東病院さんのほうでいろいろ考えを検討しているということをお聞きしています。それがまず一つですね。

ただ、東病院さんのほうでいろいろ検討されている内容というのは、すみません、私も詳細を伺っていないものですから、どういう状況にあって、実現性がどうなのかというところはちょっとまだはつきり私も存じ上げていない状況はご了承いただきたいなと。

もう一点あるのは、市のほうでそれは携わっている内容なんですけど、医師会さんのほうと、もともと日本製紙の工場の停止の前後から、診療所がなくなったというところがあって、その頃から私は今の課にいますけれども、医師会さんのほうと年に何回かやり取りさせていただく中で、地域としては医療機関がないというところが大きい課題だということも私もお聞きしてまして、市のほうで病院を造るという考え方はなかなか持てないというところはそのとおりでして、あとは昨今のお医者さんの不足ですとか、それからあと、勤務形態がやっぱりゆとりを持っ

た形態ということで、そういう考え方もちょっとある中で、なかなか対応が難しいというところで、先ほどお話があったとおり、遠隔診療みたいなもので、今、技術が当然進歩してきていますので、例えば福祉会館にそういう画面を置いて診療できないかだとか、全国的な例で言えば、ライトバンみたいなものに看護師さんが乗って、その通信の画面が入って、お医者さんが違うところにいながら診療できるような形態を試験的にやっているところもあるというのは、私も知っている部分です。

そういうような手法はいろいろあると思いますので、市のほうでも、医師会さんといろいろ話をしながら、どういう形がいいんだろうかというところは協議しているんですけど、なかなか実施していただけるお医者さんなり、このシステムをつくってくれる事業者さんなりというところが、まだ確定には至っていないという状況だと思います。

ただ、当然、市内の状況を考えたときに、勇払の地区自体が一番医療に困難な状況にあるというところは認識しているとは聞いておりますので、なかなか今日、明日という話ではないかなと思うんですけど、いろいろ検討している中で、対象地としては勇払というところもイメージしながら考えているというお話を聞いている状況になっています。

当然、何か新しい情報をお出しできるときには、地域の方にご説明できる部分もあると思いますので、もしばらくちょっとお時間いただければなというふうに思います。よろしくお願いします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払商工振興会の・・・です。先ほどの質問にちょっと関連した形で質問したいんですけど、勇払は高齢化率が50%を切る状態で、要するにこれからどんどん高齢者が増えて、人口も減っていく、さらに子供も減っていくという状況になります。

その中で、勇払には医療もないし、医薬品の販売所、ホーユーさんが今、医療、市販薬の販売に来たりしていますが、また床屋、歯医者もございません。既にモビリティ、タブレットとかで高度なものを目指すというよりも、モビリティの充実というところからまず進めていくというか、できるところからまず進めていくべきではないかなと思っております。

それで、やはりここで大事なのがやっぱり、どれだけ住民の人たちに認知されて利用してもらうかというところで、もう少しこの市の活動と勇払の住民との連携というのをも深めるような活動とかをお願いしたいと思っております。

例えば、まちかどミーティングもそうなんですけれども、もっと勇払の住民も協力もできるし、また市の職員の方々も人手不足でどんどん仕事が増えていく状況になってくると思いますので、そういった意味でも試験的な試みをしていくべきではないかなと思います。

この件についてはどうでしょうか。

○司会 ただいま、勇払地区の高齢化ですとか、若い人がいなくなる中で、モビリティの充実というようなお話が出てきたんですけども、回答をお願いいたします。

◎交通政策主幹 苫小牧市で乗り物を担当している村上といいます。よろしくお願いいたします。

本当にこの4月からバス再編ということで、勇払の皆様方にいろいろご苦勞をかけたりしてい

るところではご協力を少しずついただいているところでございますけど、今、新たなモビリティの話とかがありましたけれども、実は私たち、この4月から、勇払の地域住民の方々に直接お話を聞いて、どのような、いわゆる交通課題の問題があるのかというところを、聞き取りを今行っております。

それで、具体的にどういうふうな交通課題があるのかというところをしっかりと聞き取った上で、例えばその足をどのような形で確保することができるのか、例えば新たなモビリティというのは今お話もありましたけれども、公共交通を使っている方というのは高齢者の方とかがすごく多くて、例えばスマホなんかも使っている方というのは何気に少ないという事実もございます。そのところで、公共交通をスムーズに使ってもらうために、どのようにすればよいのかというところを、現実のこういう交通課題を照らし合わせて、どのような解決方法があるのかというところを今、私たちの公共交通の担当のほうで考えているところです。

なので、そのこのところも形とかが定まりましたら、きちんと皆様方に説明したいと思いますし、あとは交通課題を聞き取る段階で、少しずつ私たちの顔を覚えてもらって、いつでも質問とか、そういう意見を言ってもらえるような、そういう関係をつくっていきたいというふうに思っております。そこで、皆様方に必要なことを説明したいと思いますし、きっちりまず顔を覚えてもらって、説明をして、信頼関係をつくっていって、それで次、どういう形で足を守っていけるかということを考えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

一番前の、はい。

◆市民 ・・といます。勇払地区の、勇払中学校区ですか。それにある学校運営協議会のメンバーなんですけれども、新しくできる学校についての一つの意見というか、お願いというか、提案がありまして、それを言わせてもらおうと思っております。

最終的に勇払に学校が残り、そして小学校、中学校一貫の教育学校に決まったということは、地域の住民の意向をくんでくれて、また希望の持てることが結果になったので、ありがたいことだと思っております。

問題はその場所なんですけれども、具体的にその建物とか、今のところは新しい新聞報道では、中学校を大改修して、そしてそこに緊急避難場所も併設して持たせるという、こういうことでございます。

緊急避難場所を兼ねるのであれば、場所的に、私はあそこではなくて例えば駅の南側、そういった町中に近いところ、すなわち建物も大改修ではなくて、新築ということが考えられないだろうか。

ネックになっているのは、やはり費用的なことだと思うんです。私の聞いているところでは、大改修したとしても、耐久年数が向こう長くて25年ぐらいだと。そうすると、また20年、25年近くなってくると、またその後のことを考えなきゃならないし、費用もかかる。

今の建築資材だとか、工法だとかを用いて新しく造るやつは、耐久年数が約80年あるというふうに聞いております。

費用的な面では、ざっくりと倍くらいかかるということなんですけれども、その倍というのが、10億円と20億円なのか、20億円と40億円なのか、50億円と100億円なのか、そこら辺のことが分からないので、どうもいまいち納得できない。ただただ目先の費用のことでの間に合わせ的なそういった処置かなというふうに思わざるを得ないところもあるもので、その費用的なところで、本当にこれはもう無理な数字だわというものであれば、私も納得せざるを得ないんですが、この80年、それと25年のこの55年のスパンを考えたときのその費用負担、それはどういうふうに考えられるんですかというところをぜひお聞きしたいなというふうに思っております。

それとあわせて、聞くところによると、自治会さんと市のほうとの話合いの中で、自治会さんからはやはり避難場所として、例えば命の丘的な、そういったものを、山を築いたり、あるいは新しい施設を造ったり、そういうことを要望しているようで、それも一応は進んでいるようでございます。そうしたら、これから造る学校に併設する避難所、避難場所、避難施設、それとどういうふうに整合していくのか。別々に二つ造ってくれるのか、そういうことも考えると、私は新しく新築して、一つのものを適正な場所に造る。

その学校と避難場所のほかに、今はやりのいろいろな機能を持たせた複合的な建物も可能でないか。例えば、公民館、パブリックセンターはもう40年ぐらいの年数が経つわけで、あと10年、20年したら、また耐久年数がどんどん経過していく。

それらを考えると、今少しぐらい費用がかかっても、適正な場所に複合的なもの、学校に限らず、そういったものを造るのが得策でないかなというふうに考えるもので、質問、要望いたします。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、2件いただきまして、1点目が勇払地区の学校についてと、それに関連して避難場所についてということでしたが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎総務企画課長 教育委員会の総務企画課の下濱と申します。いつもお世話になっております。

私のほうから、学校の今後について少しご説明いたします。先ほど、・・・様がお話されたように、勇払小学校と中学校の児童生徒数の減少に伴いまして、望ましい教育環境というのが維持できなくなっているということもありまして、教育学校という小中一貫の学校を一つの施設で、一つの組織として今設立に向けて、準備しているところでございます。

学校の校舎も、勇払中学校の校舎を活用して、それが校舎老朽化が大分進んでいるということもありまして、大規模改修を行いまして、いろいろバリアフリー化ですとか、そういったものですとか、あと、外壁とか、内部もそうですけれども、改修を図る、教育環境の向上を図っていくというような今方針で動いております。

あとは、津波避難のことも考えて、足りない部分を増築するということであれば、そういった津波避難も考慮した建物ということで、勇払中学校の校舎ということで、教育委員会の方針を決定したところです。

新しい場所でより中心部に近い学校をとというようなご要望かなと思うんですけれども、まず私どもは学校を改築、建て替えとなると、まだ校舎自体は使えるという状況がございますし、建て

替えですと、今、学校で言うと、1校を建てるのに、それこそ30億円とか40億円という多額な費用もかかってしまいます。今、市全体で公共施設、人口減少に伴いまして、維持管理ですとか、今後の在り方という部分で、市全体の限られた予算の中で、整備が必要という中で、現在、勇払小学校、中学校については大規模改修と足りない部分の増築というところで、教育委員会として方針を固めております。

今後、市全体の人口減少もそうですし、勇払地区の子供たちも減少している中で、今後大規模改修を終えて、さらに、いよいよ建て替えが必要なのかというときには、この学校の在り方というもの、建て替えもそうですけれども、近隣の学校に登校とか、そういったことも考えながら、今後、子供たちのために考えていかなければならないというところですので、まず、教育委員会の方針、先日、学校運営協議会でも説明しましたがけれども、その方針についてご理解いただければと思います。私からは以上です。

◎危機管理室長 防災を担当しております危機管理室の前田と申します。後段の避難施設の考え方の部分、私のほうから説明させていただきたいと思います。

この津波も含めての避難施設なんですけれども、この地区の津波避難施設というのは、まず勇払の学校の二つです。小学校、中学校、それから日本製紙さんのアパート、それから最近では市営住宅です。こちらのほうも津波の避難施設にしています。

基本的には、津波到達までにこれらの施設に避難することは可能だというふうに言われています。私どもとしては、この地域はもう津波到達までには避難できる地域だというふうに考えているんです。

ただ、先ほど来お話があったとおり、この地域は高齢化が非常に進んでいる地域です。そういったこともありまして、自治会さんのほうからは、例えばもう少し中心部に築山といいますか、命山をつくってほしいといったお話もありました。その際に、命山というのも一つの手なんですけれども、北海道の津波避難で大事なことは、避難したときに例えば冬だったときに、その後、どうするかということもあるので、山ですと、野ざらしになるんですよ。本州では、築山を避難施設にするというケースもあるんですが、なかなかちょっと北海道になじまないかなというような検討もしました。

その中で、私どものほうのこの津波避難施設をどう増やしていくか、評価するかというところの一つの考え方は、今ある施設、既存の施設を活用して、そういう新たな津波なり、災害から避難できる場所を設けられないかというところ、そういったところから検討させていただきまして、それで、今私どもが考えているのは、公民館です。公民館の上に上られる、そういう仕掛けをしようかなということで今検討を進めているところです。

その際には、先ほど来、お話がありますように、高齢者ですとか、なかなか学校まで行くのが大変だという、そういった方を対象に最低限の命を守るための機能として、公民館の改修をしたというふうに思っております。

それとあわせて、今学校も大規模改修という話がありましたけど、もともとそういう津波避難施設の指定している施設でありますので、そこを強化する形でもって、その機能も維持していき

たいと、そういったことで現在進めているところになります。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 質問していいなら。

○司会 はい。

◆市民 公民館の上に避難施設を造ると言ったときに、何メートルぐらいのものを想定しているのか、本当に安全なところまでの高さを確保できるのか、それをちょっと教えていただきたい。

○司会 回答をお願いいたします。

◎危機管理室長 今、想定される津波に対する安全性というお話でありましたけれども、今回、国、北海道がシミュレーションした新しい最新の津波の想定でいうと、苫小牧が一番高い津波の高さが9.7メートルです。大体9メートルぐらいの津波が押し寄せてくるという、これ、最悪の場合の想定ですけども、最悪の場合には、そのぐらいの津波が来るという想定がなされてしまいました。

それで、その中での避難体制なんですけれども、公民館にそういった8メートル、9メートルの津波が来たときに、公民館は大体5メートルぐらいです、浸水する感じが。その5メートルに対して、じゃあ、建物の高さは何メートルあるかというと、2階の上で、あんなところでも7メートルの高さがあります。大体2メートルのマージンがありますので、これは本当に想定に対する対策ですから、なかなか限界というものはあるんですけども、最悪の想定5メートルに対して、2メートルのマージンを持った7メートルの高さがありますので、それであれば、今ある建物を活用するということで公民館、場所的にもやっぱりこのまちの中心部になりますので、そこを非常に厳しい財政事情ではありますので、やはりそういうこの地域の高齢の状態、あるいは津波浸水想定、その厳しさ、そういうものを考慮して、何とかこの勇払についてはそういう対策をつくりたい、そのように考えております。

以上です。

◆市民 どうもすみません。そうしたら、10メートル以上は確保してもらえると、そういう施設になるというふうに考えていいんですか。

◎危機管理室長 今、建物の高さが7メートルという話をしています。津波の想定が5メートルですので、10メートルの高さを確保するのではなくて、公民館の屋上が7メートルあります。なので、最悪の想定よりも2メートル高いところに避難できますので、言ったとおり、今の公民館の屋上に上がれるような仕掛けとか、外階段とかをつけるような形になると思うんですけども、そういう今対策を検討しています。

◆市民 そしたら何m、津波の最高。9でなくて7m。

◎危機管理室長 そうです、先ほど私が9メートルと言ってしまったので、ちょっと誤解があるかもしれませんが、沿岸の津波の最大の高さが9メートルなんです。その後、例えばこの勇払ですと、地面の高さがありますよね。地面の高さが大体2メートルとか3メートルありますよね。その分を差っ引かれますので、そういう意味では沿岸の津波の高さが9メートルになります。でも、それぞれの地盤高がありますよね。公民館の地盤高は3メートルぐらいはあります。3メートルある上に、建物の高さが7メートルあるんですよ。なので、8メートルから9メートルの

津波が沿岸までやってきても、差っ引きでもって、公民館の辺りだと、建物に対して5メートルの高さの津波がくる。2階の途中ぐらいまでの津波が来る想定でありますので、屋上は大丈夫という、そういう計算になっています。ちょっと説明が難しいんですが、そういう考えになります。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 大丈夫でしょうか。公民館に津波が到達するのは5メートルということなので、公民館の高さは7メートルあるので、余裕があるというような趣旨かなと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 自治会の・・・です。草刈りについてのお願いなんですけれども、昨年、住民の方から、中学校に通う生徒の歩道が草がぼうぼうで、中学生が車道側に出て通学しているという、そういう話がありまして、道路維持課のほうに連絡しましたら、すぐに草を刈っていただきました。

今年も、私が見たらやっぱり草が生えていて、夏休み、2学期が始まる前に、電話したら、すぐ対応していただいて、通学路に関しては、こちらから要望するんじゃなくて、やっぱり事前に見ていただいて、草を刈っていただきたいなということで、今後、よろしくお願いいたします。

返答は結構です。

○司会 いいですか。それでは、ただいま通学路の、回答については、大丈夫ということでしたが。

◎道路管理主幹 草刈りを担当しています、維持課の菅野といいます。通学路の草刈りなんですけど、維持課に何度かそういうお話をいただきまして、一応気にはしているんですけれども、ちょっと草刈りも、いろんな草刈りをやっているんですけど、ちょっと追いついていないところもあったりもするので、私たち、パトロールを職員でもしていますので、その中で職員でちょっと伸びてきている草を刈ったり、そういったこともできますので、何せ小学校、中学校の生徒が歩く場所なので、そこが草で通れなくて、車道に出て、事故に遭うということも十分考えられますので、その辺、ちょっとまた再度、注意深く見ていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいますか。

◆市民 おぼんでございます。4番の鹿の関係で草刈りのお話が出たついでにお話ししようと思って、もう何回か言っているんですけれども、道路の草を刈っていただいたことで、鹿に対する対策として大分効果が上がっている。去年も言ったんですけれども、件数としてはもう10分の1ぐらいになっているんですね、路線に対して。まだ鹿の事故が多い路線があります。場所で言うと、ローソン勇払店から、トヨタのほうに向かってセイコーマート港南店がある、カーブがあるところですね。その路線が今勇払の管内で一番鹿の事故が多いところです。

この路線なんですけれども、トヨタと面していて、トヨタのあるほうはすごく草を刈ってくれています。きっとトヨタの人が自主的に刈ってくれているんだと思います。一方で、セイコーマートがある側は、現在もおぼぼうで、視界が物すごく悪くて、恐らくこれが原因で車の事故が大変多くなっております。

ほかの路線については、これまでに言ったとおり、言えばやってくれるというふうに思っておりまして、ここもぜひやっていただきたいなという要望が一つでございます。

○司会 ありがとうございます。ただいま、鹿との事故対策としての草刈りについてのお話でしたが、回答をお願いいたします。

◎環境生活課副主幹 はい、エゾシカの対策をしております環境生活の高坂です。いつもお世話になっております。今、お話のありましたローソンとかセイコーマートの部分の草刈りのお話だと思うんですけども、実際に、我々が今やっているところの路線というのが市道の部分なんですけれども、管理者がちょっと市のほうなんですけれども、今駐在さんのほうからお話があったところは、ちょっと港湾道路で港管理組合の管理道路になるものですから、ちょっとそこは管理組合と情報共有させていただいて、草刈りの対策ですとか、そういったものがないかというのを、ちょっと私も鹿の対策をしている部署から管理組合のほうにちょっとお話をさせていただきなというふうに思いますので、よろしくをお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。もし1回目がなければ、2回目以降をお受けしたいと思いますので。

◆市民・・・です。安平川でPFAS（有機フッ素化合物）が検出された件で、ちょっと新聞記事が7月に出ていたんですけども、勇払橋のところ、2011年10月に道立総合研究機構が採水して検査した結果、1リットル当たり73ナノグラムのPFOA（PFASの一種）を検出しているという件は、市で把握しているのかということと、それと、もし把握しているんだったら、調査とかはしているのかどうかを聞きたいです。

○司会 ありがとうございます。ただいま、安平川の水質に関してのご質問でしたが、市のほうで回答できる方はいますか。少々お待ちください。

◎脱炭素先行地域推進主幹 ゼロカーボン推進室の干谷と申します。ゼロカーボン推進室といいますのは、元環境保全課というものです。すみません、ちょっと今伺ったPFOAが勇払橋のところで2011年に。

◆市民 2011年の10月に検査して。

◎脱炭素先行地域推進主幹 検出されたといったところですね。申し訳ありません。ちょっと我々はそこを押さえてはおりませんでしたので、ちょっと後ほど、終わった後にちょっと詳細を聞かせていただきまして、我々のほうでもその道立研究機構でしたっけ、そういったところのお話を聞いていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○司会 それでは、まちかどミーティング終了後、ちょっと詳細を教えていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民・・・と申します。勇払跨線橋の歩道についてなんですけど、2番の要望の中身なんですけど、この歩道橋は恐らく私が記憶している限り、数十年前から要望が出ていると思うんですけども、進捗状況というか、今のところ、まだ検討段階なのか、前向きな感じなのかを知りたいです。

母屋というか、自宅が勇払橋の近くにありまして、避難場所が中学校になると、恐ろしく遠回りをしなければいけなくて、勇払跨線橋を渡る歩道があると、多分距離が半分になるんです。先ほどの津波被害で、遠くへ逃げる、高く、上に逃げる、どちらかをやれと言われたときに、勇

払に高い建物がないので、中学校におのずと避難することになると思うんですけど、その時間が半分で済むというのは恐ろしく便利なので、ぜひ早急に避難対策としてでもいいから、整備していただきたいと思います。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま、要望の2番に関してということでしたが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎道路建設課長 皆様、おばんでございます。市道の整備を担当しております、道路建設課の小田と申します。今、ご要望のありました2番の跨線橋のところなんですけれども、こちら、かなり前からそういった要望をいただいているのは存じておりますが、こちらは北海道さんが管理します道路、苫小牧市で担当しているということになっておりまして、整備するとなりますと、やはり私どもの市というばかりにはいかないものですから、こちらは北海道さんにお願いするような形になります。

今年度もこのご要望をいただきましたので、改めて、私のほうで北海道さんに伺いまして、昨年のお話ですとかもお伝えさせていただいたんですが、こちらにありますとおり、交通の状況、やはり津波避難のときもそうなんですけれども、通常時の交通の状況、歩行者の数ですとか、そういったものをやはり造るに当たっては、検討しなければならないというところで、現時点ではまず前向きにいついつに造りますというようなお話は聞いていないというところです。

ですので、最後のほうにも書いてありますけれども、早期の整備に向けて、引き続き事あるごとに、北海道さんのほうにはこういったお話、今日が終わりましたら、また来週にでも、改めてこういう要望があったということをお伝えさせていただきたいなと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○司会 それでは、道の管轄ということでしたので、市のほうから要望を引き続きしていくということでしたので、よろしくお願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。もしなければ、2回目の方でも大丈夫ですが。2回目、・・・さんですね。

◆市民 ・・・です。よろしくお願いいたします。2回目の質問になります。避難関連の質問になるのですが、11月5日、自治会さんと合同で避難訓練をさせていただきました。このたびは、本当にありがとうございました。

それで、避難場所、避難関連で、パブリックセンターの上に避難場所を造るという形で、何となく聞いてはおりました。ただ、1月1日の津波の警報、注意報が出てから、早めに逃げる方、高齢者が多くなってくる地域ですので、そういった形で進めてはいきたいと、意識を高めてはいきたいと思うのですが、野ざらしの場所に1時間も2時間も待っているとかいうと、現実的ではない。また、学校も夜中でしたらまだいいんですけども、期間労働者の方が多いので、こういった形で逃げてこられるのか、避難されてこられるのかというのがまず予測がつかない。恐らく、通りすがりの車も一気に来るかもしれません。

そういった中で、まずは住民の意識というところを固めていくというのが先決ではないかなと思っておりまして、ほかの市町村だったり、都道府県のレベルでは、一般の市民と地方行政機関を交えた第三者機関を交えて、そういった計画を練ったりしているそうです。

そういったことは今後可能なかどうか、質問させていただきたいと思います。

○司会 それでは、ただいま、避難関連ということでしたけれども、市のほうから回答をお願いいたします。

◎危機管理室長 今のお話、第三者機関というお話ではありましたが、行政と住民とあるいは企業市民の皆様を含めたような、何かそういう組織化というお話でよろしいですか。

はい、ありがとうございます。この防災についても、町内会の皆様をお願いするところはありませんけれども、先ほど来お話があるのとおり、やはりこの高齢化というところで、この防災に対しても町内会がなかなか大変だという実態については、私どもも承知をしております。

そうした中で、今、私どものほうでちょっと今のお話とはずれるかもしれませんが、今やっているお話を一つご紹介差し上げますと、町内会の方タイコール自主防災組織という組織があるんですけれども、防災を専門的に担っていただく組織、これを苫小牧市では町内会の方にやっていただいています。この自主防災組織の連合会というものの事務局を私どもがやっておりまして、この連合会の取組の中で、例えば消防団の方ですとか、防災ボランティアですとか、あるいは地域防災マスターという有資格者の方、こういった方々が結構地域にいらっしゃるんですね。

こういう町内会さんだけではなくて、地域にいらっしゃる防災のちょっと分かっている方をつなごうということで、意見交換会というようなことも始めさせていただいております。それで何とか地域防災力を上げようという、そういう取組をさせていただいております。

今お話があった、例えば企業市民も交えたような組織をつくるというところは、相手もありますし、地域によっても様々な環境がありますので、ちょっとすぐにそういった取組というのは難しいのかなと思って今聞いておりましたけれども、例えば今ご紹介がありました10月5日のこの地域の訓練は、商工振興会様のほうのお声がけで、自治会とともにそういうのをやっています。私もそのときに参加させていただいてお話をさせてもらっています。

そういった取組の中で、いかにその地域にいらっしゃるほかの企業市民の皆様方も入っていただくかというところ、こういった取組、ほかの地域では例えば福祉施設を交えて訓練をするですとか、そういった取組もありますので、我々もそういったところに呼びかけて、地域の防災訓練に、そこの地域にいる関係機関のみんなが参加できるような、そんなようなところを取り組んでいきたいなというところで、今のところのお答えとさせていただきたいというふうに思います。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、時間が近づいてきたので、先ほど手を挙げていた・・・さんのほうで質問を受けるのを最後にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 ありがとうございます。先ほど来いろいろ回答とかを聞いているんですけれども、地域の問題で、市でなくて道とか、それから港管理組合の管轄ですから、「そちらのほうに報告しておきます。」、「話をしておきます。」と、毎年同じような問題で同じような回答を受けている。伝えてくれているんでしょうけれども、実際にその後、本当に道とか、港管理組合とか、そういうところがやってくれているかどうかという検証なんかは、どうなんでしょうね。

何か見えていれば、もっと、ああ、やってくれているな、よかったなという感じになるんですし

ようけれども、毎年同じ問題について、毎年同じような回答で進展が見えないというのは、いかなものかというのが一つあります。

それから、勇払は本市のほうから15キロやっぱり離れているものですから、この限られた地域の中で、ある程度完結するようなことを我々は望んでいます。例えば学校しかり、なくなったら大変です。あと、病院、医療関係だとか、それから先ほどお話がありましたように、ライフ関係で床屋さんだとか、そういったこともあります。一つ一つ、沼ノ端、あるいはまちのほうに出なければならぬというようなことが、勇払で完結できない。これを何とか、例えば建物を安く提供するとか、公民館なんかも結構今、利用頻度が減ってきているから、そういうところを医療関係だとか、例えばですけど、床屋さんだとかに利用できるようにするとか、提供するとか、何かそんなようなことは頭に置いて、勇払のことを考えていただきたい。

苫小牧発祥の地と誰もが、市長をはじめ、言ってくれます。だけれども、いろんな問題について本当に勇払のことを考えて、将来のことを考えて施策してくれているのか、考えてくれているのかというと、こういう場では良い返答言いますけれども、なかなかその実感として受け止められない。もう本当に勇払の将来のことを真剣に考えていただきたい。後ろにいらっしゃる、あるいは前にいらっしゃる市の職員の方、一人か二人、勇払に住んでくれませんか、地元の人間として。苦情です。

○司会 ありがとうございます。

◎副市長 大きな苦情をありがとうございます。・・・さんが言われるように、市役所の中でも縦割りは何かといろんな形で言われることがあります。これが今度、北海道の所管、港管理の所管というのもありましたけれども、なかなか市が直接関わることができない部分というのも確かにあるんです。ただ、・・・さんが言われるように、毎回同じ要望をしているのに、何の解決にもなっていないんじゃないかということも、それもあろうかと思います。

我々もその検証というところまでは、確かにしていないというところはあったと思います。ただ、毎年同じ要望をして、毎年何も改善されないというところを勇払の地区だけでなく、まちかどミーティングをやると、そういうふうにご指摘を受けるというのも多々あるんですね。ですから、市が行える取組については、もう少し待ってくれ、あと何年待ってくれという話はできますけれども、そこを国や道の機関が所管する部分、あるいは港管理が所管する部分、私たちがそこにつなげているわけですので、そこを地域に対して、もうそれは、どういうふうこれからどんな対策を打とうとしているのか、どのぐらい待たなきゃいけないのかということところは、市としてもそれぞれの機関にしっかり聞いた上で、地域に下ろしていきたいなと、そういうこともしていきたいと思いますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

それから、勇払地区の振興策的な部分、勇払で完結できるような、いろんな施設も含めて、何とかしてくれよということだと思います。やはり日本製紙さんが撤退されて、診療所もなくなり、高齢化も高齢化率も高くなるということで、勇払地区特有の課題はたくさんあるものというふうに私たちも見ております。

日本製紙さんが撤退して以降、この地域の振興をどうしようかということで、自治会さんとも

市の職員それぞれ担当者と何回も話し合いながら来ていますけれども、それを全て解決するだけの、私たちもなかなか苦慮しているというのが実態であります。

ただ、このままではよくないという、このままにしておくわけにはいかないという思いは私たちも持っていますので、いろんな形で、先端技術も使いながら、こういった手法、方法でこの勇払地区を少しでも、お住まいの皆さんが安全で安心な暮らしができるか、私たちもしっかりと自治会の方々ともお話を聞きながら、今後ともこの地区のことを考えていきたいと思っていますので、すんなりいかないのは、どうぞ、少しだけご理解をいただいて、もう少し皆さんとの協議の場というところを大切にしながら、私たちも考えていきたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

○司会 それでは、意見交換のほうは終了させていただきたいと思います。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、木村副市長よりご挨拶させていただきます。

◎副市長 長時間にわたり、ありがとうございました。

なかなか意に沿うような回答ができなくて大変申し訳ございませんが、私たち、すぐできることは本当にすぐ対応できるようにしたいと思っています。ただ、すんなりいかない部分でも、どうしたら違う形でできるのか、またその経過がどうなのかというのは、地域の皆さんにもお知らせしながら、これからも市政運営を続けていきたいと思っております。

とにかく職員は一生懸命働いております。何かありましたら、どんどんご利用いただきながら、私たちも仕事を務めていきたいと思っていますので、ぜひどうか、・・・さん、温かい目で見守っていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は、長時間にわたり、本当にどうもありがとうございました。これでまちかどミーティングを終了させていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。